

白山

令和7年10月31日

令和7年度第三地区広報誌「白山」第1号

第三地区協議会長 斎藤 均

民生委員児童委員としての任期3年がもうすぐ終わりを迎えます。第三地区民生委員児童委員協議会も退任する方、もう一期委員を継続してくださる方と様々ですが、地域福祉活動の一助になったのであればありがとうございます。

＜今期限りで退任される方々よりご挨拶です。題は全員が民生委員児童委員、主任児童委員としての“活動を振り返って”です。 ＞

会長 斎藤 均（千谷川 担当）



この度の挨拶の際に、「アットという間の6年間でした」と書き出そうと思いましたが、内心は「あと、何か月…」というような思いで過ごしていました。肩に荷が下りた、ホットしたというのが本心と思います。地域のための福祉活動は多岐にわたります。ホッコリする事案もあれば、かなり大変なこともあります。ボランティアとはいえ、全く分野・業界の異なる世界での活動は、ままならないものでした。長い間留守にしていた地域への不義理に対する思いから始まり、徐々に顔馴染みとなった高齢者からの一言「歳を一つとった以外変わりねーて。ありがとう」との返答で、一安心する日々となり、今は退任に至り、少しはお役にたてたかなとの思いであります。第三地区の先輩・現役委員の皆様と、市福祉事務局他関係機関の方々には大変お世話になりました。6年間ありがとうございました。

瀬沼 務（桜町 担当）

民生委員・児童委員を拝命し、二期6年が過ぎ、この度の改選で交代することとなりました。

最初の一年は、何をしてよいかわからない中、第三地区の民児協の方から仕事内容や課題等について定例会で色々教わり、何とか二期6年を務めることができました。これも同じ使命・目的を持った仲間がいることが大きかったものと感じております。小千谷市のどの地区からも更に核家族化等が進んで高齢者が増え、民生児童委員の需要が高まっていると考えられますので、これからも皆様は今まで以上に大変だと思いますが、地域のため社会奉仕の精神で頑張っていただきたいと思います。6年間ありがとうございました。

小川 晃（桜町 担当）

一期3年の在任期間でしたが、民生児童委員としていろいろな学びを経験させて頂きました。

特に視察研修では少年院や障がい者施設等、日頃行けない施設を見学することができ、貴重な経験をすることが出来ました。活動を通して感じる事は、やはり普段の近所づきあいが大事であり、町内会・福祉会などと連携して地域ぐるみで問題に対処していく事が必要と考えております。

渡邊 辰男（千谷 担当）

3年間、民生委員・児童委員という肩書をいただいたことで、地域のご家庭の皆さんと、さまざま

お話を聞く機会をいただき、改めて高齢化社会について考えさせられました。核家族化が進み家庭の自助力が減少し、今後はますます地域力への期待が高まると思います。民生委員は退任しますが、これからも地域の一員として、地域力の一部になればと思います。

渡辺 ノブ子（両新田・時水・戸川 担当）

あまり身構えず地域の住民としてやっていこうと活動をはじめて6年経過しました。

在宅を支援するためには専門機関ばかりでなく地域住民の協力が必要であり、民生児童委員の「つなぎ役」を感じました。知らなかつた人との出会いや研修で得た知識は私の財産です。今後大事に使って行こうと思います。ありがとうございました。

須藤 真理子（平沢町 担当）

二期6年間、あつと言う間の在任期間でした。垣根を低く同じ目線で寄り添えば…と荷が重いながらの6年間でした。困ったことがあった時には地区会議でのご助言を頂きながら、なんとか対応できた事、新たな出会いに感謝し学んできた事を微力ながらも別の視点から地域での見守りを継続し貢献できたらと考えています。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

金箱 和美（城内3丁目 担当）

民生委員児童委員として、地域の皆さんとどう関わったら良いものかと不安なスタートでしたが、委員の皆様からの「関係機関への繋ぎと考え、無理のないよう、出来る範囲で」とのアドバイスに気持ちが楽になったのをついこの間のように覚えています。あれから6年。皆様のお陰で続けることが出来ました。この間頂いた、地域や皆様との繋がりをこれからも大切にして行きたいと思っています。

本当にありがとうございました。

水口 道代（城内4丁目担当）

不安と共にコロナ禍での活動が始まりました。初めての定例会、現況調査と緊張の連続だった事を覚えています。各委員会、研修会は様々な学びの連続でした。

特に総合支援学校では先生方の愛情と工夫溢れる支援の現場を見学でき、心に残っています。こんな私を受け入れていただいた町内の皆様、委員の皆様に感謝申し上げます。

長谷川律子（城内1丁目担当）

4期12年間、城内1丁目の民生委員をさせていただきました。昔ながらの住宅地ではありますが、アパートも増え、相談内容も多岐に渡り変化もみせています。最近では民生委員との関わりを拒否する方もいらっしゃいます。民生委員の活動の押し売りをすることなく、必要な方に必要な支援の手や情報が届くように心がけてきました。多くのお年寄りの皆さんと顔見知りになり、街中で声をかけていただけるようになったことが、私の財産となりました。

閑 昌子 主任児童委員

就任当初は、相談事項が多く、家庭に出向いたり、学校や専門機関と連携してきました。第三地区では、校長先生のお話を聞く会、学校訪問など企画・運営、定例会の茶菓準備（？！）など、楽しく活動をすることが出来ました。ありがとうございました。

平澤 理子 主任児童委員

「一期だけなら」とお受けした主任児童委員も三期 9 年の任期を終わろうとしています。たくさんの事を学び、経験させていただきました。委員としての活動は終了しますが、これまで得た知識や体験、経験がお役に立てるところがありましたら、協力していきたいと思います。ありがとうございました。

令和 7 年度の活動報告

今年度も様々な活動計画を立て、委員全員で取り組んでまいりました。活動の報告をさせていただきます。



<県外研修 須藤 真理子>

6月12日～14日の研修旅行にて宮城県白石市民児協との交流会が行われました。

全国的な懸案事項として「なり手不足」対策について積極的な意見交換が行われました。両市とも、次期候補者について地域の希薄化に伴い、選任が困難になっていることが話題になりました。また、共に震災を経験した立場として、年月の経過・高齢化に伴いコミュニティの希薄さにより、民生委員自身の身の安全の確保と学ぶことの多い交流会となりました。

<町内会長との懇談会 小川 晃>



第三地区では毎年、町内会長と民生児童委員との懇談会を行っています。これは民生児童委員を町内会長に知ってもらう事、町内会長と情報を共有し連携して地域の課題解決を目的として行っております。

今年も6月3日に開催され、冒頭、市の担当者から、民生児童委員の職務内容・求められる適性についての説明がありました。その後、各地域の担当者より現状報告、活動内容、困っている事等の発表がありました。活動状況や課題は地域間によってバラつきがあり、特に市街地では近所づきあいが希薄化しており、アパートも多くなかなか面談できない等の声も多く聞かれました。

その中でも一番大きな問題は、新しく民生児童委員に成り手がいなく、改選時期になるとどこの町内も頭を悩めているとのことでした。これは全国的にも社会問題となっており、核家族化やライフスタイルの変化が進み、制度の見直しが求められているのではないかと思われます。

今回は新たに町内会長になった方も多く、民生児童委員の活動や悩みを知ってもらう意味でも有意義な会でした。高齢化時代を迎えて地域の課題も多様化している現在、民生児童委員だけでなく地域全体で課題に取り組んでいく仕組みづくりが必要なのではないかと思われます。



<民生委員の活動を通して “私の出来事” 小宮 武>

令和4年12月に民生児童委員の委嘱を受けて、早いもので3年が過ぎようとしています。この間沢山の出来事がありました。

2年目の専門部会編成で高齢者福祉部会会長を務めることになり、自分に務まるかと、とても不安でした。そんな矢先5月の人間ドックで病気が見つかり、不安で眠れない日々が続きました。

そんな時、地元（片貝）で同級会があり参加して、久しぶりに会う仲間たちと楽しい時間を過ごす中で、とても大きなパワーをもらった気がしました。そして、「病気も部会運営の事も頑張って乗り切ろう」そんな前向きな気持ちが湧いてきました。7月、8月2回の入院と手術も無事終わり、部会研修会も、部員の皆さんや町永係長の協力を頂きながら、2回の研修会を行うことが出来ました。健康な時には気づかない様々な事を思い知らされる、とても貴重な体験でした。家族や仲間たち、そして多くの人達との繋がりの中で生きている事に感謝しました。そして、最も大切なことは「早期発見と治療」、私たち民生委員の活動と同じですね。

2期目を迎えるにあたり、これからも地域の皆さんに寄り添い、必要な人に必要な情報や支援が届くよう「つなぎ役」として努めて行きたいと思いますので、これからも宜しくお願ひ致します。

<千田中学校を訪問して 平澤 理子>



第三地区には3つの小学校と2つの中学校があります。主任児童委員が担当する活動として、各学校の「校長先生のお話を聞く会」を長年実施してきましたが、昨年からは「学校訪問」で子ども達の様子を直接見させていただくように変更しました。今年は9月11日（木）に千田中学校を訪問し、授業参観、給食試食、その後懇談会を行い、最後に校内を案内していただきました。難しい数学、ALTによる英語、オリジナルキーholdeを制作する技術家庭などの授業に、生徒達は落ち着いて取り組んでいました。

懇談会では、学校での生徒達の様子や地元地域との交流の様子をお聞きしました。地元四町内がそれぞれ活動している芸能活動体験や地域行事への参加など、地域への関心を持ち、コミュニケーションを大事にしたいと思っている生徒が多数いる事や生徒会としても取り組んでいるとの事でした。また、休日の部活動が学校から離れ、地域や民間等の外部指導に移行するのに伴い、生徒達の様子が見えづらくなる事が心配で、ますます地域の人達の目や見守りが大切になってくるとお聞きしました。学校と地域の連携がますます重要になってくる事を実感し、民生委員・児童委員、主任児童委員としての協力体制や情報の共有などの連携の大切さを改めて感じました。



<日赤新潟県支部を訪問して 長谷川律子>

令和7年10月10日（金）、第三地区民児協の研修として、日本赤十字社新潟県支部を訪問しました。初めに赤十字の行っている災害援助のDVDを視聴し、その後「地震への備え」いのちを守り暮らしをつなぐためにという題目で小千谷市出身の指導講師 菊池 俊郎氏によるお話をお聞きしました。最近は過去の事例を超える事態への対応が必要であり、自助…自分の身を守る。共助…自分だけでは成り立たない暮らしを皆で助け合う。公助…行政の助け。これを合わせて地域の防災力となる。災害からいのちを守るために防災・減災に努めていきましょうと結ばれました。

令和5年に現在の新社屋ができ、災害時に救護活動の拠点としての役割を果たしていますとのこと。別棟の災害救護倉庫には災害時にすぐに支援物資となる物品が備蓄されていました。

地震をはじめ災害はいつどこで起きるかわかりません。自分自身も日常備蓄をしなければ…と反省しました。